

平成29年度第1回中空知定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時：平成29年10月16日（月）14：00～16：00

開催場所：滝川市役所 8階 大会議室

出席委員：加藤委員、三戸部委員、茅野委員、黒坂委員、上坂委員、中村委員、石田委員、金山委員、篠島委員、柁野委員、那須委員、大下委員、荒岡委員、三原委員、鎌塚委員、飯尾委員、志部谷委員、岩橋委員、峯村委員、照井委員、高村委員

1. 開会

- ・委員27名中24名が出席し、過半数に達しているので、設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立している旨を報告。

2. 委員紹介

- ・事務局より委員紹介

3. 挨拶

- ・滝川市長より挨拶

4. 議題

(1) 中空知定住自立圏構想の進捗状況について

事務局より、資料3に基づき、数値目標やKPIに対するH28達成状況を報告
⇒質疑等なし

(2) 中空知定住自立圏共生ビジョン改訂について

事務局より資料3に基づき、H29以降の事業費の変更と事業の取組み実績を説明
⇒質疑等なし

(3) 個別テーマの意見交換について

事務局より資料4に基づき説明後、各委員から発表。（意見の要旨は次のとおり）

○人口減少について、他から呼び込むのは至難の業であるので若手の流出を防ぎたい。

○滝川の工業高校から土木科が数年前からなくなっている。今まで、土木科の卒業生が圏域の建設業界や市町に就職して地域に貢献してきていることから、北海道に土木科の復活を要請していくための議論をお願いしたい。

○就業の条件もフルタイムの勤務だけではなく、午前の4時間だけ、午後の4時間だけ若しくは夜勤だけなら、などという働き方も提案していかなければならないと考えているし、

同時にこの仕事の魅力を発信していかなければならないと考えている。

○今回のキーワードには「新卒者」、「女性」、「高齢者」、「外国人」となっているが、ぜひ「障がい者」も加えてほしい。人手不足というなかで、障がい者の力が見直されている時代になってきている。

○高齢者がエリアサポーターとして動くことによって、地域にも貢献できるし自分自身も元気になる。自分たちが健康になることにより医療費の軽減や介護保険に頼らないことが可能になる。就業に結びつくかはわからないが、介護の一助になればと思っている。

○遠くない時期に外国人労働者についても頼らないといけないと思っているが、「住宅」や「言葉」の対応をどこまでできるのかなどが課題。

○滝川にある國學院短大も5市5町で誘致した大学のはずであるので、ぜひ人づくりに役立っていただきたい。

○花火大会のスタンプラリーなど、中空知は良いところだと子供のころから感じていて初めてUターンが実現するのではないかとと思っている。地域の良いところを気づかせる取り組みが大事。

○介護職はどこでも人材が不足している状況にあるが、日本全国で2050年には38万人の介護職員が足りなくなると聞いている。何かの都合で今の職場から退職するとなったときに、圏域のほかの施設で受け入れることができるような人材をシェアするような考えをもって、大事な人材を圏域で抱えていけるような仕組みにしていきたい。

○介護職の働き方改革の一環として土日の勤務が難しい人のためには、休日のみの勤務にできるようにするとか、週休3日制を採用するとか休憩室を整備する、スターバックスのようなものを近くに置くとか就業環境の整備も同時に考えていきたい。移住者を呼び込むことは難しいと思うので、出ていかないようにすることが大事。

○シルバー人材センターの登録者が減少している。高齢化が進み、老人がいないわけではないので、情報公開をしながら人材確保のための勧誘を行っていきたい。

○女性には産前産後の勤務の問題や子育ての問題など様々な問題があるが、女性が働くための支援を継続していきたい。

○就労にはつながらないかもしれないけど、高齢者が自分たちの健康を1年でも長く良好に保っていることが国民健康保険や医療など地域に迷惑をかけないことにつながっていく。

引きこもりではないが、元気な方が家にいるような場合にどうやって社会に出させるかが課題。

○超高齢化社会となり生涯現役となる時代ではないか。「高齢者」とか「後期高齢者」とかはもっと違った表現にできないものか。

○高齢者の定義も 60 歳の定年から 65 歳定年の時代へとなる。人手不足というなら高齢者を活かしていけるような体制作りが大切。

○就職希望の学生の内地元に残る割合は少ないので、何とか地元に残したい。そのためには、新卒者はもとより女性、高齢者、障がい者の就労支援を行える体制作りが必要。

○中空知の若者を極力他の地域へ出さないようにしたい。そのためには定住自立圏でも雇用先があって魅力のある地域にする必要があると謳っているが、行政は昔からずっとそうだが、いまだに「おらが町」という感覚を持っている。広域としてとらえるべき。

○地元の魅力はなかなか気づかないものであり、外部からの目により気づかされることが多いので、外からの発見をどんどん取り入れて地元の魅力を再発見していくことも大事。

○私は今年、中空知の花火大会スタンプラリー10カ所をコンプリート（完全制覇）した。このおかげで、私の子どもたちが中空知5市5町の名前を言えるようになった。自分の住んでいる街を誇りに思える気持ちをどう養っていけるかが大事なこと。

○農業は冬の仕事がないので、冬の所得確保対策を行政として考えてほしい。

○農作業の手伝いとして障がい者を雇用している。単純作業なら障害の程度に応じてやっていけるし大事な戦略となっている。

○農家戸数が減少したことにより農作物の生産量も激減している。生産量確保のためにも中空知が1つになってやっていくべき。

○農業者が不足している一方で、道内の農業系の各大学では新規就農したいという希望も多くある。帯広畜産大学では農業生産法人への就職希望が2位である。中空知の行政としてもそういう情報をキャッチできるアンテナを張ってほしい。

○新規就農の希望はかなりあるのだが、まるっきりの新規となると農地の確保や農業機械の確保にも数千万円のお金がかかることから困難な場合が多いので、農業生産法人が必要となってくる。行政としても考えてほしい。行政も合併していかないと町により、農業政策

にはらつきがあるので中空知が1つになってやっていくべき。

○共生ビジョンでは鳥獣被害対策の事業費が載せられているが、1つの町だけではなく、みんなでもやらなければ何の効果もない。

○昨年も定住自立圏で婚活イベントを行っていて、今年度も行うことになっているが、中空知のそれぞれのイベントに札幌圏の女性を招いたらより効果が上がると思う。

○中空知圏で1番自信と確信を持って誇りと言えるのは災害が少ないことではないか。最近よく「想定外」という言葉を耳にするが、「想定外というのは想定しようと思えばできる」ことだと思う。ぜひ広域でタイムラインを整備し、より安心して暮らせるところだと言いたい。

○高齢者が働くということは介護予防にもなるが、若い人の職を奪うことにならないか。

○圏域外からの転入は大事なことだが、転出させないことも大事なことではないか。空き家の有効利活用を支援する制度を持っている「中空知住み替え支援協議会」をもっと活用すると良いのではないか。

○長いスパンで見ると中空知は1つにならないといけないのではないか。

○世間では働き方改革といわれているが、今まで通りでは解決できないと思う。短時間労働という意見もあったが、労働時間なども含めて多くの人の力を借りながら働く環境整備が必要。

○情報発信が大事なことであり、まず中空知に住んでいる人が知らないとなの人に広がらないのではないか。皆さんの事業所のホームページに定住自立圏のホームページリンクを貼ってもらうことからスタートするのも1つではないか。

○合同企業説明会では進路指導の先生の力が大きいと思うので、進路指導の先生へのアプローチも必要なこと。

○外国人の技能実習制度では介護に関して3年を5年に11月から法改正はされても、言葉や住宅の問題など、なかなかすぐにはならないと思うが、女性や高齢者なども含めて人材確保につなげていければと思う。

○障がい者労働力に関しても大事な戦力であり、できることをやってもらうことにより一緒にまちづくりをしていきたい。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局より、本日の結果を以降の会議で報告するとともに、各専門部会においても、今後の政策への反映についての意見交換を行っていく旨説明。

5. その他

- ・議事録の作成、委員謝礼について連絡

6. 閉会